伊勢記 三

遠
1682
3

饗庭文庫

御前義經記

東海道　南世十二ぶん

三之巻　目録

一　近江の水海

矢ぐ瀬の赤へ志乃江
志のうこと勢盛ゲ海の
矢ぐ瀬にまりけ釈ゲ数珠

二　海道ゲ

男比丘尼あゲまらぐり
志ゲ冠ゲ海ゲ
ゲ冠ゲさミせん

面影うかぶる山中とうとん

三 本海道やう〳〵粗

たゝめう佛めいさざいこん
生界んをふ別のようびひ
けがそう切盗人の前

面影うかぶる義経のはなし

四 おり合の女郎

葉ゐ月ち涙〳〵あんぐ智恵
小鳥ようかぶる長田ゲ色

面影うかぶる上るり形

又 樓で意と尽十二段

今義出世ハ海さきの
深ようかぶる野あ面影
墨絵如郎しゐ見ようのゲ見に

一 近江乃水海

琵琶湖乃雅景ハそこまめあを出し海とんぶ
どなり。今義経ゑ了ゲ情ゆくとうしんぶ
そしようぶさそつまてゆかのあり海。矢ゲ世の赤ふ仮紅し。
蓮華のめんくはめんと魚子とせあゆ高人ゆす。風呂敷包ゆ
ゐる花むさぶちりめんゆそち海さやく孫ゆ三ゲ新ゆ
うるび蛾しゆ蝶を孫ようと花りとに純屏風海
風ふぐ卵とたのちさこ孫ゲう。赤ゆ孫ようゆ
て海上ようゲ出と附ゆ波ゲ三ゲ新ゆ
波赤ゆくまてゐうゆ赤ゆ孫ゆ
いどうゲそぜんさけうてゆ赤ようゆけ赤ようゆやうゲけいくい

何を見聞きいめ、と血脈よりなりくいく、善悪ごとうそ、八
宗義。妙法蓮華経ハ南無二のこゝ仏成ハ、こめうむ、ゝ、
聖来。南無三宝。遍照金剛と、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
祝ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、

南年ゞの数中断ありて、都なりしあそうまと
とうまとの所領なり。星をそちと心ゞく金星位和
と所をいたしてあるくゞの月をもくそ三夫の郎はの夫生
あく長れ運なりそちゞ尾まあ所ちろうめうゆの
ゆまそ所ロとゆ合い二人ゆ郎はふあまぞあ
ゆ

終

とうまとの所ろとうのくちゞゞ
今ちゆうまへおゞろう終ぬれ
ゆうそ人生なりゆ。あゆがたあそまゞゞ的未命をあや
うしゆくゞ生ゞ娘ゞ生夫船中とさいとはよ化ゞとゆと
とうんゞゞり人勢れ雅風とたとうゆ菩薩の形なり
いゞくゞ日ゆの形カあゆれ河ゆとさんゆ。ゆのくゞ乳をめうゆ
あくゞゆゞりたりと出ゞそとしゆそ女乃生夫うゞみと

なもとたそをかのるものはしぶ紙七寸より新なる山よのが
りく勤行おこたらじ天台止観の旨を知りさ一念三千ときさ
とあつてぜんく慈悲の衣八十寸より長く長くぬつて天ふ
りく高くにつて行法と仏ぶつ法ほうの御ひさうおりて
うなれ意法よりとづさどうなる者とろしいろるすめ
ぐりてそ法のわたれ仏ぬ構仏一泡のあうりんなそむんなもひ
とま法よりあまとと法よむりてあしけ泡ぐや
法まにあうさ女ぬさぐ九袋してぬさふ神と海よけて
てあ神にわつかまぞも我ぬ名村八郎法ぐ姫ふさぐ面彩
のうめ出ぬ義ぐのやとひもうぬ意のう法れ身の
意とと法人ありておろ法よ。法京ぬくハ一文字食のみさや
とゆんよまうあれてまあわぐ花二世の三世おとちうひのひて

我意なわわとれ世お。世紙を何のもなまあむしとぬ法ま人
せめてうみとうさんあぬ山海まで付そひあと名法ぬ
うう人法深ぐうりちの都をあとざめてぞんうとれにぐいろ
とうあひふようれまおぐりうさんりとりんけめのりうこづまハ
水よひしぜんどうりみぐしあ風情今義ひうとあさ
ぬうう。情のあうさ花ぬぐあれにと法しにあ。ぬりひの
かな法浦波ぐとあぐくりんそいやうえぬやまりぬといふと
ぬうとあうりぬくみ母をあ知ぬうおぐりあぐぬとけてそな
かうまりぐと教様ありうんぐ。東方よりうざんぜ南方にうん
ぐり原ぬやぬ方にいいくぬ方金剛原ぬやぬ中央大聖
不動明王のまぐさぐんざぐ作ぐうりゆうぐ世りや得人多
あぐうりゆうぐ女りや昇外成紀ぬくおそうぬとうぬ輝や

とうとみのひとまとり。さいまでけいぶやとの和尚でうゆき
なげきてく志賀房橋ちれのまつ法よりのいりせにそり。常谷よ
りうびあまたちうとまりてせみぞいのうえいかりとせ多ふりて。
長意ハんちゆうひ。ゆうさあ

二　御前義経道行

虎の尾とかきそこあひぞくだりにとのうまてふんぬのやう
さ解中何を何のなく糸ふとゆ海せ。ゆ。を秘ゑうが秘法
ふりゆへなりと恨うちにえびせの浦よ糸ゑ付べおのく
金ぬいと毋ごひくくワうまりゆ。今義をんゆとどれをいどゆざ
うゆ三ちゆ。ゆうりゆく。秘ろにのやうせまゆうく。ゆの浦の宿
まで。まりゆぞうひハ家ゆとひそうあうあよ三ハ。ゆ中ゆ三う

そく花二りとあうゆ。て孫ゆ海。秘ゆ。ゆ。ゆ。

すでと俵よりそめ衣の序神ごとのて二人が悦よにうれさう
事もとゞめにぞんぜん第とゝまりとめんと。
外ろう大方にてろうろうふろやとゞ〜みぞまに新とゝろ
くゝんあひ樹を仰ぎり出前をを紙名八おつあ〜ろうちん
と分色〜。京ろくまでいなさまくゝあのとうそ分ぐ
うぢわくくうとんいそぐやとゝおつあ〜さ毎八やゝ
ゝろおすぐやと人なる野道すてゝあまろ〜ゝさいん
ゝろおひいとゝ仏ものわらうあや。この花へや
あげます。高位のすぐや長すりぢゝゝゝよりまま
せう。樹色ゝり知ゝと今義ゝ仏也比丘尼ゝ〜笑れ地蔵
までゝりまゝと。ゝゝ八ゝ書ずゝゝゝと分て
流ます。三味線八次郎冠ちゝゝゝ次書曲ておゝ

おゝれませゝ。仕〜素濃仕ませゝ。ゝ乳ゝかりて
おゝ〜ゝ。古来ゝり上ゝりなゝはゝと分て流ゝ。
ゝゝと金剛ゝ樹ゝ〜と分ゝこゝゝゝい乳ゝ人屋ゝ海
踊踊ゝくゝゝゝゝゝゝゝゝ後ゝくゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝの文句ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
屋ゝに仕ゝ〜ゝ京ゝゝゝゝゝゝ角屋ゝゝゝゝ八生花
ゝまゝまゝゝゝ永閑。大坂ゝて八文孫義屋ゝゝゝゝ
にゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。私のゝゝゝゝ義屋
脚。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
次郎冠ちゝ八三味線の調ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ出ぬ

たゝりゝゝ比丘尼

石橋
六山
あつま

まとが
まつば

海ようひりふくりけにまこふ。ぷうりゝひとぷあるぐ[illegible]ゝちとぷ
ぐいぐあぐあるゝくゝあれゝ分なりゝをぷまこむとびゝくゝ
ゝびゝひゝとぐゝさあゝりゝてびくゝ辺くゝぷゝとくゝしてふゝあ
をてぐんゝをゝうゝさゝいゝろゝざゝうゝれゝゝつゝをゝわゝそゝくゝと。
かゝくゝあゝびゝをゝあゝひゝとゝうゝくゝぷゝそゝげゝぐゝさゝのゝうゝちゝうゝゆゝひ。
あゝとゝこゝのゝとゝぐゝさゝぷゝさゝをゝひゝぷゝりゝてゝをゝこゝいゝもゝおゝうゝなゝうゝこゝよ
ゝの月とゝぐゝあゝひゝ今ゝうゝゝ[illegible]ゝちゝさゝよゝわゝゆゝこゝぶゝりゝぷゝとゝあ
ゝあゝひゝけゝゝ花ゝのゝあゝにゝさゝうゝりゝぐゝまゝんゝとゝをゝかゝようゝけ。ゆゝさゝあゝけ
わゝとゝをゝんゝうゝかゝくゝくゝあゝうゝしゝとゝまゝひゝくゝふゝとゝうゝて。ぷゝちゝと
ゝんゝくゝのゝぷゝをゝうゝつゝる。ゝ川ゝつゝゝいゝけゝようゝげゝうゝくゝよゝとゝよ。
ゝゝゝのゝにゝうゝひゝふゝあゝやゝあゝまゝびゝあゝぐゝうゝさゝうゝさゝにゝあ
ちゝうゝちゝしゝてゝおゝのゝひゝくゝあゝぐゝれゝぢゝとゝぐゝうゝのゝゝきゝようゝひゝやゝこゝに

うゝりゝぷゝあゝるゝうゝどゝんゝそゝぐゝゆゝかゝくゝとゝをゝゆゝめゝにゝとゝうゝをゝよゝ
うゝ川せゝいゝくゝしゝあゝあゝぐゝをゝれゝあゝりゝぷゝにゝうゝひゝうゝてゝづゝら
ぐゝさゝうゝくゝうゝぐゝくゝ夢ゝぷゝさゝてゝんゝようゝりゝの水ゝあゝまゝぐゝく
なゝびゝさゝわゝふゝ夜ゝのゝぷゝこゝよゝぐゝさゝぷゝうゝれゝぐゝさゝとゝぶゝをゝのゝくゝめゝに
をゝぐゝさゝうゝくゝさゝんゝづゝち山ゝとゝのゝがゝりゝてゝくゝあゝりゝにゝぐゝさゝうゝひゝぐゝ
しゝい伊勢ゝけゝうゝあゝぐゝてゝにゝぷゝうゝさゝんゝあゝさゝ面ゝを月の下ゝにゝうゝや
をゝまゝとゝをゝもゝぐゝまゝ。あゝよゝあゝをゝれゝぷゝうゝぶゝぐゝよゝこゝてゝに
ゝうゝとゝれゝうゝやゝしゝうゝいゝをゝうゝうゝ田ゝひゝう根軍ゝのゝぷゝうゝあゝを
あゝいゝぐゝをゝあゝひゝ。ぷゝぐゝれゝえゝをゝてゝにゝわゝうゝれゝうゝてゝうゝひ
よゝぷゝゆゝけゝどゝすゝぐゝうゝぷゝうゝりゝうゝとゝむゝうゝしゝまゝあゝげゝすゝき
むゝをゝ山ゝあゝあゝいゝをゝうゝぐゝくゝをゝとゝうゝくゝあゝげゝへゝあゝひゝりゝをゝぷゝうゝの
ぐゝうゝよゝあゝうゝてゝぷゝうゝくゝとゝうゝへゝのゝひゝよ

今うつうまつさ月にあまりぞこびのあんざをいふ
いまのひとつぐ今になりぬ所ぬ年にあるたぐ只何
るをまんゆのぬあんざちうそと今ハ〜ぬいとあく
しびづうまいぐわてせのふぞしせよちぐとヤにぞ
いやとよ高八月れちぐ所ぬ年ぬぐ所ぬおりひのあまいのちち
ぐにあるあ〜ぐたてにあるあせくとくぬたさぐこうくうひぐ
ちうれとたう〜ぬはあ〜ぬあんをさうぐぬいうぐといさあ
いさめ〜ま月をたうやあ〜よい所さぬ山今十丁のうあぐと
とたうびくてんせくせれのぐざうにつさに所

三 幸海乃屋うう組

こうひの美八ひ高ぬれ坂屋とい所たうぐ所ぬ指うれ
屋ぐうぬふうう孫の田屋美ぬとうんひりにいないう。

あまにぐうあう腹ぐまハつい〜ぐとう〜ぬ乃光ぐ三ぬ三百三
十ぬどに三百所ぐう〜ぬまあぐどうあお合ぬそ〜ぬくと織う
河とう人所をあうぬそまさ人うそうつに水風呂ぐあさ湯
たとぬ女めぐまさうにうびにぬ湯よぬぐ雑乃に
うまもやとまんとれぐざうになりくめぐ今義とうつ
され五尼〜所者のぬ下ぬ等ハ何ぬぐとはよとあて美
ぬさあ〜〜湯屋ぬ〜とさ〜のぐちぬけあぬ風呂
のまうりに下女下男乃あみ居ぬいあくいあすいさあん
ぬうあハまひ稲て花とあり海とぬずんさう花ふよを央
ぬさうて美とむとびめにく元数ぬ中乃ら花
者ぬ酒盛まくぬさ人た色さんたそよ二月ハなんざ美美ぬ
うけうんのむ河の勝ぬまりぬ〜とうけば二合まハうう

乃十郎上総ノ介とよ景の孫八郎清忠いかづまの郎ノ介者共
にとりこと次カ与ノ介ノ介ノ郎女ひとりはまんがのやたあた
いどうせあやうく組ノ介つまの宿くすくものいてとせばかりの
にのりくわだれいりくれぬまりさんにはなたがたのはをつざの
めおいもちぶんにたでりくりせぬけざくさくいは強人の
よりのまをんをあしむこのなかさうふとこひてとせいとと
もだいつもどもまてこ雲人ノ介あれ者よ勅を比五尾のうつ
らさ者ノ二人ともりくみると勅八ノ介ノ中に幸ノ介なぐ
さみをへうびくこのうこりせぬ小車ぬくくく

ちうこうこれをいめいのくるかいまの月十四人ものをとらめいはのみてそびを
解きもつこうりと出ませ稲べゆうーてらぐさんせといつよ都れいを
ぬぐ面白い色那はといいまてせんうさなく紙ぐを巻へ糸ちんと。
ひ紙へをどうく巻へわのくりのと耳にいまをくゆをんけく
ちひ弄巻へ出稚べ蔵うう組た恢ざあ茶ぐ且いてこ酒ひ
ぬんありくこいけた酒ひあぐぬよなんぞうえといるすうを
うんうあぴやおおううぴやをあうこうとぴおにぐさをうぐ
おるぴあんのうちなりに今う西世のくありざいりんぴけぐちへ
てくんをあぐどはうあさせて巻ちんもくうて
ややくてまうぴあまれおちぐ巻長ぴさ酒いけどうあく
ちよなりぴまんけ方義いありーりぴおやのうんどううけさ
くりぐけをるすいおくけうしてうことひ方屋ぴ代ぐ巻い

ぐかせぐゆくぴぐんのふぐんとありけうとぴやおうろけのうけ
くうひ焼いゆどすくくうをさぐくをうりおどひ巻ぐ別
かおづちうんひうぐさうけくうちうりむんぐよとなり
しとうやぴもひ大立数を巻ぐ西のうんぐん那るにりとぐ巻い
巻ざうすあ稚ぐをしとうくうけちうあまいぐやあんん
ぐるれくいなんいぐどうれひ同ぐ七分とうやまりてア
と今花のくありぐいのりんぴまくれぐくうひうみぐく
うつ巻あり一ぴ那よくあ西ひうんぐ一ぴひうのおとーうい
すぴくそりのすけくよのひいるぐどうぐどうく稼うくさど
とぴうひげなれ巻ひんぐ別ぴーありてけ西巻なく
ぴくう風稚よううけるいあ同どうありたおんあ
巻ぴうりあどーう今とうていあーかげ巻八悪ぐあれうーみ

御門表忠臣蔵三
十三

御門表忠臣蔵三
十四

夜まもなく御ふくぐ御ふろ入れまいらせ申させ
ちゃうりとぐうしまさせとうぶ御ふろ入れ
いくぐの御ふ入海り。角くハ家にわらうれなどをく
てと御ぐうひてかぐうしと色屋よりのび入ぐさう
うげいく鼻いさせ。奥の御ぶとまるるにおよたぐ
そぐ屋〳〵組付そそ今なりまゆいんいやまきうと
立さうぐ。中ひを十義分別ておよせんらどりまく長
とりふ人ゆうまとぐもうくんとふ服筋やすぐ。色ま
なれ勢ま屋ぐと角内ぐ一よわふりてなつよやぐ。二のぐハ
動八とりわふりぬ。おりうのとも色れるくぐまりて
とへわとぐいそぐに。祝句くさ〳〵見ぐら〳〵わふりと同ぐ
ぐ〳〵御ふりわふりお御ハ祝おふりけるく

りとぐそぐ沢ひろにおのびりふよりわりもうぐ義よハ御
ぐれ侍四人〳〵海り合〳〵ぐ。姫すぬわけふふあどろ
さぐ人一度ハ員とえんぐぐ。ぐ耳にふやさかのにだ
りとりわげ侍りふにぐ。動八角内義すもまぐび志八び
入ぐぐとさ〳〵のぐ〳〵ぐすふちぐれよにわ
〳〵ひふ義ひふるりハ手わもれぐとふわよい申ハせ〳〵と。
盗人のぐにやとぬさ祝ハ義人たふ切ふとと一家おどろ
さぐもふくぬいれわんどふちんさふよりわふさ
すさふと引さげ立御祝おどさいくぐの屋三人のふ
めとり。下の代表ふ人ふ屋ハ出後義
とげらぬ盗人りさハまり。義合ぬ御れさふひ前
ふぐぬりふびふふんぬふりふ屋りすぐ。歌ふ今義ハ

いりのけをうとをあく。ぞの夜、広野の近辺のさのひろと
（四）乃つと合わ女舞
広野より三里ばかり、ゆき三丁ばかりゆけば、ふうつ。
まぐれのこの様と云うは、ちょうど山をもろくと四月市を
二里半の所、宿くよ鮎食うらんとうんてんあり。
炬くんぞ、市れば九ぐろにたなりて海辺のまん中まで、わ
けぶにぐろく、海をながめ風情毎、訳うけ付鮎風いぐ
ひやうなりめ、ぞ風おいて世話ゆーて、ぞ、ぞ、ぞ、行
まにうーろうりうを所ぱげふ、ふ、ふ、ひ今ようー
見をあがめく。訳うが神をひろへわ、ぞ、ぞ、ぞ

心とあるくのしひこそこにごさるおなじ御ハ女房の小結花
ぎぬや年に一度づゝ名古屋へ芝居にござるこちとゝハ人ゝ
ものゝ知ぬ身なんとゝ申の侍くわいゝ。兼ゝあるゝとゝ
ゝ。御の兼花ハ知んとゝ申そのゝ合ゝくゝとゝゝ色ハ知
ぬ智恵じや。強ハ色ばき深世ハ情ゝよのゝ合を他生の
縁ゝ。さゝまゝくゝ世ゝとゝゝくゝものゝぞまゝゝとがいゝたゝり
わゝゝれゝゝゝくゝもゝどんどゝゝゝゝゝ家ゝ知ゝゝゝゝゝ
に野ゝゝゝゝゝ

三浦左衛門尉ふさをとりつく。ゐざれ下にうちくゝめと長
田とびかゝりつく。一方ならつきとゝせば。三浦中々ふかハ情なし
とよ長田殿。あやうしとハせまじと。前へ引ぬけて
西うゝ。勢十二三人とんで出。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。十二三
ばかりよりとりひしがるよりなりに成。そ是より長
田義盛公の出あかり。こゆりの花傾りて。あぐこ三浦の
とゝ付て。ひしひしとゆわせ。こゆわづれ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ろうびあひしゝ三浦湯殿よ入。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝに成りぬれば。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

[illegible]めいかなるぞとのたまへば、郷わらべ申すやう、
器遊とや申なりと申すなり。ばとやをくして、蛙とうへにさ
ゆるさぬるものと思ひ給へ。行くへ定めさせ給へとて、
もりくゆるく伊豆やあげんとわるきめ新り今義経
息女の位不器遊とこゆくより始めて、
ひりもそまくを意味なりと

又 さ海ぐく意をもて十二段

繁面白ぬ形うもとぐ〳〵おぐら〳〵弟ちとそ〳〵八のと
なるみぐ〳〵ぶりうもとん風笑寿。天つとん山猫ともじば
訳言八猫人とおのぐ〳〵貴笑めく〳〵ものじゃと者とか
あつとぶもとんつとにとはよとものへて乃里ぐるまちつとも宿
と思ひとうめく三見器遊。高物の八〳〵八猫トの町屋

[illegible]めいらく高風の新紙り。二見八猫より三見乃見世一
見乃八口六人ゆくとにくさこむくるかう紙ようり解うてあつ
とん紙ようもおくうゆぐ紙より新しや。有りてハいるの人を
と暮しに紙屋の見ものおりとそ高風乃者遊人高貴
に天狗ようにくく。よの八ものせわぐさ所ぐ〳〵ものとと
今ぐ〳〵よをゆ。風八高義ぐと紙ようとく業門ぐそ
とうの八生ぐらく者紙くハ紙ものの若ものの細のりく義
に乗りぬ見紙ようぐ〳〵ものとうくやとものう。若三
郎三ハ者人よ弟面と。今義おめ〳〵ぐ家〳〵さるくいさ
いとけ中ものとぐ紙ありくぐ〳〵ようくれうハうとれへ
とあ面ぐ者ようう一巻の紙〳〵さんるぐ。人与歌の動物の
よとよとうりくぐ。ものくハ紙ようて有りりぐ

ひきぶの御後にゆかせ給ひ給なり。毎いつもさ流の糸の紙方
なれとおげさ笑くと義経ひ兵武蔵の方へ参りめ給と
ぞ父のゆりとおひ力大あり。一生はかりの事なれ
ば。ちゑ乳母なさ給ふ。姫御前は運とひろうせ給ひ給つゞ
やさん殿人はそよあひく。ひさうれたんうどい高麗
動をとい者あり。色へをゆぐりあり。くそ後男石
くへ人ひ武方ようり人とそて。お縫殿の御めの来るさせ
やさん兵衛奥方へと。色後のちゑとれあそ。れ
ちきいぐし。ものるすも色へはるをくひくらとみ重
にまるびくひこりとさはぐしおくやうなる能
京よおくめ若うが姫今年十又れ振袖おのり
てひ下まを方ひ婚前後十四。大和殿長三郎ひ豊居ん給

ちく意やうげんとうく人ゑて、ゆりてこそうく人ゑ
ゑへのあげ勝なれ六月彼よふ判もろふ海都て姫
よ意ぬこつけ姫やよ人るがかつとゆ、さお姫宿の姫ゑ
ど今義ごうりさと神お彼さ毎の屋も兵部宿ら
屋よ二ゑ兵部ぬ毎ぬそれこうあ人ゑ
百万踊のちねとやてゑ、ぬ人ゑ
ていく。京は世く居すくうら役ちの月のくりへ武川
基く御巣ろくうとが小野川字源氏居とこ三吉あ
ゆあ、りとこ水来屋ら御せいのるさへ思井ち源を思こて
位そくけたくどうとそうとうとうるいすもいる毎お
ゑがどざんしてゆりひとよくめ病ち花一人を波今一人へ
ゆづりけめ偽大和屋ゑ巣ぶ月対よちまく巣ぶり

にしてゆうへゆ村せこゆ小ぬ御極なり兄ぶ御女ぶ御
うくどうしやうちとと御父ふ御ふ兄宿てとおいした
ゆうあゆ御ふあうゆんじや御ふちとぬごと本よ姫のなる御
御とゆて姫の新ゑ武ゆ盛よくとまくぬまけたちけれちを
くく色姫宿ち巣しゆあるひつけうゆ御くくるくに御ふ
とうひうちくちけんとゆごひの様よりみたゆ。ごうひいて
りへ意の豆源ちけれとそ姫うとのとうう源なるは
ちくえうこ味源今義ゆ一月に御ゆごくうゆ私ゆ義ゆ
ゆ姫ゆそひ長の義ゆ姫ゆつまとゆいさめんあびさうれ様とちつま
しうへ思ゆり意く姫く様ゆさの男に姫ゆ御ゆ今義ゆ部ゆうゆ
前ととごうゆどんちゆ比月来のちゆよ書ちゆ御ゆとそゆひゆもゆん
れれゆいづゆま様ゆまゆて京ちゆとゆ、ゆ姫ゆのさうれ様ゆ山王御ちう

ちひとをぶしう。あとへてびく〳〵半時ばかりまてこせれ中
をれぐらねえゆへよわこぶまてつ。ほの夜の時と
わ夜〳〵。鬼一口おまさろうぐ〳〵ほ男めとをぶ乙ほ
にぐ。今義様とびぶわげ。我ハ〳〵乃ちけざうてぬぐ里
あまあ乙の奇てや。家うも人ぐ〳〵ぞ〳〵やうらまとへ
ゆりあ。〳〵もとをのうぬてあ。ろ乙とあ〳〵わさらく〳〵ぐ
福べうのあ十二度了。ほよ仕ほあいさ乃ゆべ。ま仕祠いさほ
ゆなまた九市の塙ぐ乃ちさて。名考ぶてぐさぐ那福少
〳〵ちぶ附へび塙うあ〳〵ぶ下にうぶよけらまて。ちまと
鶴に一夜の高ぶすどうく〳〵ま情わ様情ハ人のあ
あ〳〵ぶ様乃高〳〵ぞ様乃ほ。訳うゆ。ま〳〵くハ門乃
分ほよ仕ゆの今とま乃高盛ゆま近日出家さすきべ

如ほ法のくまうりあとゆるゆもあぬぞう。ぞうハ〳〵
どのへきとへとハ家〳〵ぐ一分ま三度ぞゆうとらまに只指信ハ
福ぶまのとわざとまあ〳〵びとゆうぞ。姫ゆ〳〵見ぶ法いす
ぐうりゆんまあ。ま法のたすハ三東乃お釈迦仏さ人面ま乃に
ら女よ黙りあひらぐ〳〵ぞる者とうけあの法乃ま箱と
法とゆまハ筆ゆ覚ま法乃釈乃方法一如とゆ〳〵さハ花の
行あま仏なり法も家ま用ぐうゆうまとゆ。
ぐ法せうゆん無なゆ。ぐうハ人
とありうり今にちひまま世ま
釈乃あとあよれうみあ〳〵ぐ雲よ御信あよびあ迦あま
ぐゆま悪見すハまま法ゆて法ゆるゆありぶおとハけすま
三帝毎よ世ま名ぶんぶ乃ちとあびなま舎すハ人ま

ありけいこまをとこれをとをとて。おもひをたのうゆきさかの。ひ
うへいたうくのと。姫とをとをとうりのくの一ろにこうこまをりのろ。後
なりいろとくおどり。紙ろよりをりさあがんれわちを。時が姫の面れ
うり深のめいたふきんと。但。源よりけうまべをとをとべ。屋敷如前乃
にあんべ。てんでさんせとださ行あいやく。悪侍ハ女ざうひゆうせ
ムまとよとろうどうとろもいりて女ろうのいたらとをとてんどをかいとか
たのわやまりもゆよ及ばれもとまへ。ろ行ろくとうりけくとは
とわいくうまへ。紙ろうおどろうさ。ゆうたんまろをあり
まをうりかとりくいのうべ悪男をのそろうう。稲どゆ水
海でいいろ寄りて来まべ。家りていろるとゆ。元と
うてんか精をおちゆうまでさわどされのれ夜をとうさめ

御前義經記　巻三終